

## 日本海溝海底地震津波観測網(S-net) 陸上局開所式を開催(南房総・鹿島・亶理・宮古・八戸)

平成23年度から文部科学省地球観測システム研究開発費補助金により日本海溝海底地震津波観測網(S-net)の整備事業を実施しています。

S-netとは、東日本太平洋沖の5つの海域(①房総沖②茨城・福島沖③宮城・岩手沖④三陸沖北部⑤釧路・青森沖)と日本海溝の海溝軸外側(⑥アウターライズ)の計6つの海域に150箇所の地震津波計を整備する世界に類のない、多点リアルタイム海底地震津波観測網です。総延長約5,700kmにも及ぶ海底ケーブルに地震津波計が①から⑤の海域では20~30km毎、⑥では50~60km毎につながれ、海底に設置されています。

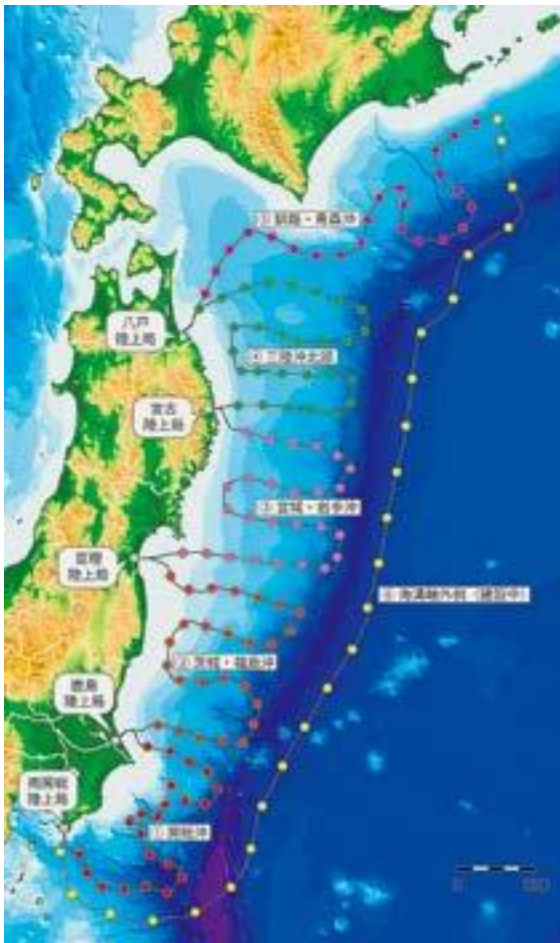


図1 日本海溝海底地震津波観測網の配置図

地震津波計で観測された地震や津波のデータは、海底ケーブルが陸揚げされる千葉県、茨城県、宮城県、岩手県、青森県の各陸上局に届き、そこから防災科研や関係機関等に送信されます。

昨年度までに①~⑤までの海域で海底観測機器の敷設が完了し、整備が完了した陸上局から順次開所式を実施しました。平成28年3月に千葉県の南房総陸上局に始まり、5月に茨城県の鹿島陸上局と宮城県の亶理陸上局、6月には、岩手県の宮古陸上局と青森県の八戸陸上局の順で開催しました。



写真1 南房総陸上局テープカットの様子

左からNEC官公営本部部長 尾崎太三忠様、防災科学技術研究所理事長 林春男、東安房漁業協同組合代表理事組合長 佐藤光男様、南房総市長 石井裕様、文部科学省研究開発局担当審議官 森見憲様、NTTコミュニケーションズ取締役 第三営業本部部長 楠木健様。



写真2 鹿島陸上局テープカットの様子

左からNEC海洋システム事業部長 川内徹様、文部科学省研究開発局地震・防災研究課防災科学技術推進室長 松室寛治様、茨城県生活環境部次長 多木洋一様、鹿嶋市長 錦織孝一様、防災科学技術研究所理事長 林春男、NTTコミュニケーションズ第三営業本部公共営業グループ営業部長 高田照史様。

## 行事開催報告



写真3 巨理陸上局テープカットの様子

左から東北大学災害科学国際研究所副所長 奥村誠様、文部科学省研究開発局担当審議官 白間竜一郎様、宮城県総務部危機対策課長 千葉章様、巨理町長 齋藤貞様、宮城県漁業協同組合仙南支所運営委員会委員長 菊地伸悦様、防災科学技術研究所理事 米倉実。



写真4 宮古陸上局テープカットの様子

左から宮古漁業協同組合代表理事組合長 大井誠治様、岩手県総務部総合防災室長 石川義晃様、文部科学省研究開発局地震・防災研究課長 谷広太様、宮古市危機管理監危機管理課長 山本克明様、防災科学技術研究所理事 林春男。



写真5 八戸陸上局テープカットの様子

左から文部科学省研究開発局地震・防災研究課長 谷広太様、八戸鮫浦漁業協同組合副組合長 濱田享様、青森県副知事 青山祐治様、八戸市長 小林真様、八戸みなと漁業協同組合専務理事 河村喜久雄様、防災科学技術研究所理事 米倉実。



写真6 感謝状贈呈 (鹿島陸上局)の様子

茨城沿海地区漁業協同組合連合会代表理事会長 小野勲様 (写真左)へ感謝状を贈呈。



写真7 陸上局見学 (八戸陸上局)の様子

防災科学技術研究所 海底地震津波観測網整備推進室長 金沢敏彦 (写真右)より、S-netの概要や設備を説明。

開所式では、ご来賓の方々にご挨拶を頂戴し、海底部機器および海底ケーブルの敷設工事に際し、多大なるご理解とご協力をいただいた各地元の漁業協同組合様へ感謝状を贈呈しました。

また、各陸上局で見学会を行い、ご参加の皆様には局舎内の様子をご覧いただきました。

平成28年7月28日より、気象庁での津波観測値の発表等において、S-netの150箇所の観測点のうち、試験運用を開始していた125箇所の海底津波計データの活用が開始されました。これにより、津波警報等の更新や、沖合の津波観測に関する情報の迅速化・精度向上が図られます。今秋からは、日本海溝の海溝軸外側(⑥アウターライズ)海底観測機器敷設工事も始まり、今年度中には全ての観測点で観測を開始する予定です。S-netの完成にむけ、今後とも皆様のご理解とご協力をよろしくお願い致します。

## 「平成28年(2016年)熊本地震」報告会

### ～防災科学技術研究所 最初の3ヶ月間の取り組み～

平成28年(2016年)熊本地震により被災された皆さまに心よりお見舞い申し上げますと共に、一日も早い復興・復旧をお祈り申し上げます。

平成28年7月15日(金)、コクヨ多目的ホール(東京都品川)にて「平成28年(2016年)熊本地震報告会 ～最初の3ヶ月の取り組み～」を開催しました。報告会には、関係省庁、民間企業、一般の方々など200名以上の方々にご参加頂きました。

今回の報告会では、発災から3ヶ月の各研究部門の取り組みについて次の10講演を行いました。

1. 熊本地震の地震発生場と地震活動
2. 熊本地震の強震動と震源過程
3. 熊本地震発生から3ヶ月後の阿蘇山
4. 平成28年(2016年)熊本地震による土砂災害の特徴

5. 平成28年(2016年)熊本地震の液状化被害
6. 建物被害について
7. 熊本地震の非構造部材等の被害状況
8. 地図情報集約・作成・共有による災害対応支援
9. 生活再建支援チームの南阿蘇における活動
10. 熊本地震 現地における防災科研の対応事例

講演は、発災から3ヶ月以上にわたる、熊本県での観測及び調査の結果と、行政への支援活動の状況報告について行いました。

また、講演の間に設けた休憩時間にはポスター展示を行いました。実際に被災地で使用している地図情報集約システムから出力した地図データ等のポスター24枚について展示を行い、参加頂きました方々に活用事例をご紹介しました。

今後も引き続き被災地への情報提供・調査協力などを継続してまいります。



開会挨拶 林理事長



講演の様子



来賓挨拶 文部科学省研究開発局田中局長



ポスター会場の様子

## 受賞報告

### 2015年度日本地震学会若手学術奨励賞を受賞

地震津波防災研究部門の鈴木亘主任研究員と、澤崎郁特別研究員が、2015年度日本地震学会若手学術奨励賞を受賞しました。

若手学術奨励賞は、すぐれた研究により地震学の分野で特に顕著な業績をあげた35歳以下の会員を対象とした賞です。

鈴木亘主任研究員の受賞は、大地震時に観測される広帯域で複雑で多様な地震波の成因を解明することを目標として、断層面上の地震波放射特性の時空間分布とこれを支配する震源過程に関する研究に取り組んできた業績が高く評価されたものです。

澤崎郁特別研究員の受賞は、地震現象の物理的理解の深化と災害軽減への貢献を目標として、強震動による地盤応答特性の変化や地震断層か

らのエネルギー輻射過程、短周期地震波の伝播特性に関する研究に取り組んできた業績が高く評価されたものです。

5月25日、日本地球惑星科学連合2016年大会中に開かれた日本地震学会総会で表彰式が行われました。



鈴木亘主任研究員



澤崎郁特別研究員

## 受賞報告

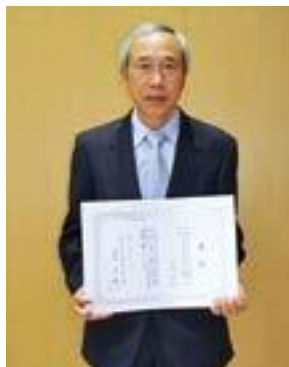
### 東北雪氷賞(功績賞)を受賞

平成28年5月13日に宮城県仙台市で開催された公益社団法人日本雪氷学会東北支部大会で、雪氷防災研究センター新庄雪氷環境実験所の阿部修専門員が「東北雪氷賞(功績賞)」を受賞しました。

東北雪氷賞(功績賞)は、雪氷学の発展に対する基礎的貢献、および雪国の発展、ならびに東北支部の運営・発展に関して、著しい貢献をなした者に与えられる賞です。

阿部修専門員の長年にわた

る東北地方の雪崩防災への取り組みと、その研究成果が高く評価され、今回の受賞となりました。



## つくばちびっ子博士2016

防災科研(つくば本所)では、つくば市・つくば市教育委員会主催する「つくばちびっ子博士2016」にあわせ、防災教育活動の一環として、昨年度に引き続き2企画を開催しました。

■「Dr.ナダレンジャーの自然災害科学実験教室」  
7月29日(金)、8月10日(水)、17日(水)、24日(水)  
4日間(各日2回各60分)

防災教育の普及を目的に、Dr.ナダレンジャーが自然災害を身近にあるペットボトルや紙、スポンジなどを使って、ミニチュアで再現する実験教室を行いました。イベント期間中は、全日程を通じて約2,100名の方にご来場頂きました。



発泡スチロールブロックが倒壊、  
これが本物だったら！

■「豪雨体験」(大型降雨実験施設)  
8月3日(水) 3回の予定が4回に！

豪雨の怖さを実感し、防災に役立ててもらうことを目的に、1時間あたり300mmという豪雨体験を開催しました。当日は、約1,200名もの方々にご参加頂きました。3回実施の予定でしたが、予想以上の方々にご来場いただき、急遽4回目を実施しました。参加した子供たちは、傘をさしていてもずぶ濡れになってしまうほどの豪雨を体験しました。



かすむ視界、声が聞こえるかな？

## 雪氷防災研究センター新庄雪氷環境実験所 一般公開

雪氷防災研究センター新庄雪氷環境実験所(新庄市)では「おいでよ！ 雪の実験室」というテーマで、一般公開を8月5日に実施し、合計225名の方にご来場いただきました。実験や体験を通して雪や氷について学び、雪氷災害について知識や関心を高めていただくことを目的として、例年この時期に実施しています。

マイナス10℃の雪氷防災実験棟内では、人工雪と横風発生装置を使用した吹雪体験や、樹氷や南極の水の展示を行いました。常温の展示室では、ダイヤモンドダストと人工雪の作成実験を行い、雪の誕生から成長の様子などを紹介しました。また、雪崩や吹雪などの雪氷災害や今冬の様子などのパネルを展示し、研究員が説明を行いました。

今後も一般公開やイベントなどを通じて、一般の方々に様々な雪氷現象を紹介する予定です。雪の美しさ、おもしろさを伝えるとともに、身の回りの雪の危険性を認知していただくことで雪氷災害の軽減に努めてまいります。



雪氷防災実験棟での吹雪体験の様子

## DONET 室戸陸上局舎 見学ツアーを開催

### 室戸世界ジオパークセンター一般公開 『深海博2016』

平成28年8月20日、21日に室戸世界ジオパークセンターにてDONET2室戸陸上局舎の見学ツアーを開催しました。

これは、室戸陸上局がある室戸世界ジオパークセンターの一般公開『深海博2016』のうち、「JAMSTEC DAY」の開催にあわせて企画したものです。

当日は、防災科研 地震津波ネットワークセンターの高橋成実 副センター長と海洋研究開発

機構の研究者らが、一般来場の皆様へDONETの成果や技術について説明しました。また、サーバールームの見学も行い、ご来場の方々からの質問にお答えしました。

DONETは、平成28年4月1日に海洋開発研究機構から防災科研に移管されました。この見学ツアーは移管後初めてのイベントです。今後も海洋開発研究機構と連携しながら地域の皆様への広報活動を行ってまいります。



室戸世界ジオパークセンター



説明をする高橋成実 副センター長



サーバールームの見学の様子

## 第1回「防災推進国民大会」に出展、講演等を実施

8月27日、28日に東京大学本郷キャンパスにて「第1回防災推進国民大会 大規模災害への備え～過去に学び未来を拓く～」が開催され、2日間で延べ1万2千人名の来場者を集めました。

防災科研は27日に、「『攻め』の気象防災～交通と農業への波及～」と「災害大国日本を生き抜く～SIP『レジリエントな防災・減災機能の強化』と熊本地震での取り組み～」の講演等を行いました。

また、27、28日の2日間は展示を行い、防災科研の取り組み概要及び全国にひろがる地震・火山・津波・気象等の観測網をポスター及び映像で紹介しました。展示ブースには、内閣府防災担当の松本大臣にお越し頂きました。

山上会館では、両日ともDr.ナダレンジャーによる防災科学実験ショーを行ない、幼児から大人まで多数の方にご参加頂きました。



「攻め」の気象防災 講演の様子



災害大国日本を生き抜く  
パネルディスカッションの様子



Dr.ナダレンジャーの実験ショー

## 気象災害軽減イノベーションセンターが始動

気象災害軽減イノベーションセンター

このたび防災科研では、科学技術振興機構（JST）のイノベーションハブ構築支援事業『攻めの防災に向けた気象災害の能動的軽減を実現するイノベーションハブ』の支援を受け、第4期中長期計画の柱のひとつとして、つくば本所に気象災害軽減イノベーションセンターを、また雪氷防災研究センターに長岡サテライト及び新庄サテライトを設置しました。

イノベーションハブ事業では、運営費交付金等による独自資金と、研究開発成果の最大化に向けて支援するJSTの資金をマッチングさせることにより、国立研究開発法人がグローバルな競争環境の中で優位性を発揮しつつ、我が国の研究力・人材力強化の中核的な拠点として必要な役割を果たします。また、オープンイノベーションを促進する人材、技術、情報が集まる場として持続的に発展することが期待されています。

気象災害軽減イノベーションセンターでは発足初年度にあたり、オープンイノベーション促進の新たな仕組みとして、事業に賛同する教育機関、研究機関、自治体、関係府省庁及び各種団体とそれらに所属する個人を会員とする『気象災害軽減コンソーシアム』を10月1日に立ち上げます。

また、重点的活動として

- ・IoTを活用した地域防災システム開発
- ・首都圏の稠密気象情報提供システム開発
- ・大雪対応サプライチェーンマネジメントシステム開発
- ・防災新技術の性能評価・標準化

に取り組んでいます。



8月5日には、当センターの活動について多くの人に知っていただくため、東京大学弥生講堂一条ホールにて『気象災害軽減イノベーションセンター キックオフシンポジウム』を開催しました。当日は、会場がほぼ満席となる234名の参加者を迎え、第一部では当センターの目的および今後の活動方針について紹介させていただきました。また、株式会社セブン&アイ・ホールディングスの栗飯原勝胤様および一般財団法人日本情報経済社会推進協会の坂下哲也様より企業における災害対応システムの課題や防災におけるデータ利用についてご講演いただきました。第二部のパネルディスカッションでは、来場の皆さんにも加わっていただき、コンソーシアムの活動や気象災害軽減技術関連の多岐にわたる話題について熱心な討議が行われました。

関係者一同、気象災害軽減への関心の高さを改めて認識するとともに、“攻めの防災”を掲げる当センターへの期待の大きさを強く心に刻みました。

編集・発行



国立研究開発法人 防災科学技術研究所

〒305-0006 茨城県つくば市天王台3-1 企画部広報課

TEL.029-863-7768 FAX.029-863-7699

URL : <http://www.bosai.go.jp> e-mail : [k-news@bosai.go.jp](mailto:k-news@bosai.go.jp)

発行日

2016年9月30日発行 ※防災科研ニュースはWebでもご覧いただけます。